

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100470		
法人名	特定非営利活動法人 緑風会		
事業所名	グループホーム大清水		
所在地	高崎市箕郷町柏木沢158-2		
自己評価作成日	平成28年6月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年7月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

落ち着いた生活環境で意のままに過ごせるように配慮して努力しています。1ユニットで少数の介護環境ですから一人一人が必要とするケアの把握に沿って支援をしています。利用者も比較的長期間利用の方が多く、又職員も移動が少ないので利用者と職員双方が既知の上で毎日を過ごしています。利用者によっては、日変が多い人もいますので病変を見逃さないようにしてかかりつけ医と看護ステーションの看護師と連携を密にして対応しています。利用者が少ないといっても、一人一人の介護を要する程度にはかなりの違いがありますので、一人一人の必要性と快適性を見極めてケアサービスに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、緑に囲まれた静かな田園地帯に立地している。職員は、家族アンケート調査や満足度調査、嗜好調査等を定期的実施し、その結果を参考に利用者の行動や思いを把握し、アセスメントの下、一人ひとりの希望や要望に沿ったケアや対応方法を支援している。また、不穏状態が強い方でも抑制することなく、その方にあった庭の掃除やホールの掃除などのできることを職員と一緒にやり、気分転換を図り、その人の力が発揮できるように介護計画に反映させ、支援に取り組んでいる。また、利用者の情報や気づきを全職員で共有できるように、ホワイトボードを活用した伝達方法を取り入れ、統一したケアの提供を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本方針・運営理念について朝夕引継ぎ時に勤務職員全員で復唱して、その意義について理解をするように努めている	理念と方針を調理室やホールに掲示して、朝、夕のスタッフ交代時に唱和し、常に理念を基本として、利用者一人ひとりに合わせたケアについて話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に屋外では近隣者との挨拶を励行し、毎月地元地域で実施されている高齢者筋トレ集会等に利用者職員同伴で参加している	毎月地域の高齢者向け筋カトレーニング、グランドゴルフには、2~3人の利用者が職員と一緒に参加したり、地元の神社の祭りにも出かけたりしている。また、ボランティアを受け入れ、尺八や三味線の演奏会を行っている。和太鼓演奏会を主催した際には、地域の方の参加もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	道路愛護活動等地域の行事にはできる限り参加するとともに、各種機会において交流を図るようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者から地域行事について推奨していたき参加するように努めている。又感染症等の流行状況等について意見を聞き参考にしたりしている	2ヶ月毎に開催、事業所の取り組みや利用者の状況(特別に変化のあった方)を報告、意見交換をしている。家族には出られそうの方に声かけをしているが、高齢化等により参加は少ない状況である。議事録は、時々郵送している。	会議に参加できない家族に毎回議事録を送るなど、事業所の取り組みを知って頂くとともに、できるだけ多くの家族の参加が得られるような取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	健康診断をはじめとして、利用者に必要な各種行政サービスを受けられるように、必要に応じて関係行政課相談したりしている	更新申請や生活保護関係の手続き、利用者の交付金の問題等の相談をしている。市からは、研修会・講習会案内の情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の研修参加を実施したり、安全管理上必要な場合は家族同意を得ている。基本的に拘束をしないケアに努めている	職員は研修に参加し、身体拘束をしないケアを実践している。玄関は施錠せず敷地内は自由に行動することができ、見守りにより安全を確保し、不穏が強い方でも抑制せず庭の掃除やホールの掃除等職員と一緒にいる気をまぎらす等、工夫し支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修参加を実施したり、職員相互で類似する対応について検討協議をし、絶対にないという認識の醸成に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の利用者はいないが社会福祉協議会の制度利用も実施し、研修・講習等に機会があれば職員参加をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項・運営規程・医療連携システムについての説明をし、理解を得たうえで契約についての説明・提携の手順をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望・意見・苦情等について自由に記していただくように玄関に常設し、いつでも自由に記入していただいている。又ケアプラン・実況報告時には家族アンケートをその都度書いていただいている	家族アンケート調査や満足度調査等を実施し、日中の過ごし方や施設環境について意見や要望を把握して検討している。来所される家族には、直接、意見や要望を聞き、その他、意見箱を設置し自由に投函して頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員同士で意見を交わし、ケアに係らずよりベストな運営に向けている。検討結果により実施するようにしている	毎月、ケース会議で意見交換を行い、入浴の時間変更や入浴介助の2人体制等を検討している。また、日常業務のなかで自由に意見交換を行い、気づきや決定事項などをホワイトボードに記録し、職員間の共有を図っている。管理者は、職員に外部研修や資格取得に対する支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修・資格取得支援を実施し、勤務予定表作成に職員希望優先		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得に向けた講習等に参加させ、資格取得により手当支給を実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会総会・研修会等に交代で参加したり、他施設見学も機会を得ては実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学は随時自由としている。入居初期には施設の案内説明や利用者の生活動作にあったケア対応を実施し、部屋割りも同時に検討している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それぞれの家族の状況に合わせて、支援をできる範囲を説明し、できる限りの対応を取るようになっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険法上の利用について、認識の誤差が生じないように説明し、時には行政措置制度についても説明している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活歴把握に努め、利用者の話題に沿って談話したり、散歩やドライブで日常性に変化を持たせるようになっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人に必要なケアを説明し認知症状況についての理解を得て、家族の不安を取り除くように解りやすく説明をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者家族と連携して、安全管理上問題がないことを確認の上希望に沿った対応を取るようになっている	地域の敬老会に職員と参加したり、神社の祭りに出かけたりしている。家族と一緒に外出し、外食やゲートボールを行う等、その人に合わせた対応をしている。本人の希望で自宅の草むしりに職員と一緒に出掛け、友人の家に立ち寄るなどの希望に沿った対応に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が日常生活をする上で、快適な毎日を送るためには共同生活者が親密にできることは大事なことである。トラブル発生を避けて利用者同士の交流を重視している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族の相談に応じて、必要により支援をする。遺物・残余財産等の速やかな処置を支援する		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の要望を受け止め、本人の希望を安全安心を以って、できる限り支援する	入居時のフェイスシートやアンケートを参考にしながら、日々介護のなかで、一人ひとりの行動・しぐさ、顔色等身体的な観察をもとに把握している。変化があれば、職員間で話し合い、ケアマネジャーに伝えるための気付き箱やホワイトボードの伝言板で共有し、支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談から始めとして、入居時には家族を含めて生活歴についてアセスメントに漏れなく記録する。支援事業所とも連絡を密にとって反映する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居して日常生活に落ち着きが取れるようになったら、利用者本人の生活状況把握と生活力の把握によりケアに反映する		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアと日常生活の状況把握により、記録と見直しを繰り返して内部ケア会議で職員同士の共通情報として、又家族等の情報も反映してケア方針とする	毎月ケース会議を実施し、家族アンケートを基に話し合い、家族の希望や意見を介護計画に反映している。3ヶ月毎に評価し、見直しを行い計画の変更項目は青文字で表記して、家族に確認して頂き、ケース記録に綴り、計画に添った介護支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき実施したことを介護記録し、職員共有の情報を正確に把握してプラン見直しに反映する		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者それぞれの家族状況に合わせて、できる限りの支援サポートを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	尺八・三味線等と歌謡でのボランティアは毎月定期的に来ていただいている。市の介護相談員も毎月欠かさず訪問している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週でかかりつけ医の往診を受け、健康管理に留意している。訪問看護ステーションの看護師による健康管理も併せて隔週で受けている	かかりつけ医の希望について確認し、隔週で協力医の往診を受けている。受診結果は家族に報告し、職員間で共有している。専門医の受診は、家族が行っている。また、訪問看護師による健康管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	上記訪問看護ステーションの看護師が隔週で定期的に来ていて、緊急時にはかかりつけ医との連携で往診対応を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に病室見舞をし、長期入院になった場合は病院の支援室係と協議を重ねて治療方針を確認して退院計画まで協議している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期には家族との契約に基づき、連絡を密にとって状況把握と相談に努めている	看取りの指針を作成し、契約時に説明している。終末期においては、家族の意向を確認し、医師、訪問看護師との連携を図りながら、看取りの支援に努めている。看取り後は、ケース会議で振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救急救命講習を受けて初期対応を迅速に行って対処し、かかりつけ医・訪問看護ステーション看護師との連携して必要があれば救急車の要請をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回は避難訓練を利用者・職員とで実施している。地域の方々の協力も得て、緊急通報装置取り扱いや消火訓練も実施している	避難訓練は年2回行い、1回を消防署立会の下に実施している。地域の方々には訓練時の参加協力を依頼し、避難場所は隣接の家の敷地となっており、協力体制が築かれている。備蓄の準備も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報については厳密に管理し、利用者個人個人を尊重することを以ってケアに努めている	利用者のプライバシー保護に努め、一人ひとりに寄り添う対応を実践している。呼称は基本は名字としているが、愛称を希望する家族もあり対応している。声かけやケア時には、個人を尊重し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人の要望を聞き取り、本人の意思尊重を重視している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の性格を把握したうえで、本人意思に基づく日常を送れるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとにその人に相応しい衣服の着用できるように支援し、本人意思の創出できるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の咀嚼力に合わせて食事の摂取ができるようにしている。本人の能力に応じて配膳・後片付けを職員と共にしている	満足度調査、嗜好調査を参考に、利用者のニーズに沿った献立を立てている。また、利用者の咀嚼状態に合わせた食事形態で提供し、下準備や下膳、季節のまゆだまづくりやうどん作りなどを職員と一緒にを行い、食事を楽しめる工夫を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節によっては水分摂取は重要なこととなるので十分に配慮した支援に努めている。栄養のバランスを考えて調理して楽しくできるように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食事後には、歯磨き等で衛生保持に支援し、夕食後は入歯の衛生管理を徹底している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	衛生・清潔を基準にオムツ利用に心掛け、利用者一人一人の排泄パターンを把握してトイレ誘導を実施している	介護記録や排泄チェック表で、利用者一人ひとりに合った統一した支援を行なっている。退院時おむつだった方も、時間を見ながら声かけ・トイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取から一人一人の体調を把握して、体調が整う形をとって便秘予防に注意を払っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	衛生清潔を保持するために入浴実施をし、本人の予防を受け止めながら納得したうえでゆったりと入浴できるようにしている	入浴は、週2回とし、必要時には3回や清拭の場合もある。基本は個浴とし、介助の必要な方には安全に入浴できるよう2人体制で支援している。入浴を拒否された場合は強制せず、時間や日にちを変更する等の配慮をしている。季節感を楽しむために、ゆず湯や菖蒲湯を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝・夜間就寝も時間的誘導はするが、本人意思も確認しながら安心して落ち着いた睡眠がとれるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の処方箋に沿った薬の管理を行い、処方箋による服薬支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の持っている能力を有効に生かせるように趣味等に合わせて楽しむように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々ドライブに行ったり、利用者個々の能力に応じた散歩外出をしている。家族との連携で安全確保の上でできる限りの支援をしている	事務所の周囲を散歩したり、家族とお墓参りに出掛けたり、利用者の希望に合わせ、数人でドライブに出掛けたりして、気分転換を図っている。また、年間行事計画により、車椅子利用の方も一緒に皆でドライブや季節毎の花見に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の認識により現金所有をする場合があるが、現在は現金所有にこだわりのある利用者はいないので、家族との相談の上現金貴重品所持者はいません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望で家族等に電話することは自由に行っているが、家族の意見も聞いてその範囲は判断している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゲーム・レクリエーション等、共有スペースで楽しむときは利用者皆で有意義な時間が過ごせるように努めている	共用のホールには外出時の写真やぬり絵などの利用者の作品が展示されている。サンルームでは、日向ぼっこをしたり、昼寝をしたりと、自由に過ごせるように配慮している。窓からは自然な景色や風が採り込まれ、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者によって気の合う人と、気の合わない人もいるので共有スペースで過ごすときは居場所の位置づけも重要なので配慮した空間づくりに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の体力・能力を把握して、日常的な行動動線が安心してとれるように部屋割りを考え、本人の好みに沿った部屋の飾り等で居心地を配慮した環境づくりをしている	居室は利用者毎の工夫がされ、重度の方は常に職員の目が届く位置にし、徘徊のある方はドアに鈴をつけた安全管理がされている。また、利用者が好きなように飾りつけを行い、所有物は自由に持ち込まれ、居心地良く過ごされる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症利用者の能力差はあるが、できる限り本人が自立した時間を過ごせるように考えた方法で支援をしている		